

## 子どもの自転車ヘルメット、事故などや転倒の際に 「頭部の怪我を防げる」(92.3%)と認識しながらも、 未だ6割近くは「未着用」が浮き彫りに。 ～着用義務化施行後8年を経て、増加基調ながら着用率は32～45%～

株式会社オージーケーカブト(本社:大阪府東大阪市、CEO:木村秀仁)は、3月28日(月)～30日(水)までの「春の全国交通安全運動」を前に、3歳から小学校低学年の子どもを持つ1,238人の親を対象に、子どもの自転車ヘルメット着用と交通安全に関する意識について調査を実施しました。

2008年6月1日の道路交通法改正により、保護者が児童または幼児を自転車に同乗させる場合や、13歳未満の子どもが自身で自転車を運転する際にヘルメットの着用に努めることが明言化されています。

今回の調査では、2年前に実施した同様の調査との比較も行いましたが、義務化施行後8年を経てヘルメット着用率は僅かに増加基調ながら、「必ず着用させている」子ども乗せ自転車ユーザーは44.5%、子どもが自ら自転車に乗る親の32.4%に留まっていることがわかりました。さらに「ヘルメットを持っていない」非保有率はむしろ増加する、という傾向も認められています。

また関西については、関東より依然低いものの、「ヘルメットを必ず着用させる」が顕著に増加するなど、意識の改善を示す結果も認められました。

調査結果の主なトピックスは以下の通りです。

トピック  
1

子ども乗せ自転車で危ないと感じたことは、他自転車との接触(42.7%)がトップ。バランスを崩す危険も半数以上が経験。

トピック  
2

ヘルメット「必ず着用」率は、子どもを乗せた親で4割台半ば、子ども自身で3割ほどと徐々に浸透。しかし、ヘルメットを持たない者も増加。

トピック  
3

年代別にみると、ヘルメット「必ず着用」の割合は、未就学児>小学校低学年>小学校高学年と、年齢が上がるにしたがって低くなることが判明。

トピック  
4

自転車に乗せた子どものヘルメット着用率は、関東(51%)に比べ、関西は(38%)と低め。しかし、関西は2年前より着用割合増加が顕著。

トピック  
5

子ども乗せ自転車を利用する親の4人に1人(27.7%)、子ども自身が自転車に乗る親の半数近く(43.1%)が、ヘルメット着用の義務を知らない。

トピック  
6

自転車が車道を走る義務は8割以上が知っているが、実際は、7割弱が主に歩道を走行。また、子どもの5.7%は、主に車道を走行。

【調査概要】 方法:インターネット調査 期間:2016年3月28日～30日

対象:3歳から小学校低学年の子どもを持つ親 計1,238人

①子ども乗せ自転車を所有し、週に3日以上利用している親310人

②子どもが自分で自転車に乗る親928人

# 目次

- Q. 自転車に乗せていて(乗っていて)危ないと感じた経験** **P3**
- 約4人に3人(73.6%)の親が自転車に乗せていて(乗っていて)「危ない！」と感じた経験がある。
- Q. 危ないと感じた経験の内容** **P4**
- 子ども乗せ自転車に子どもを乗せていて危ないと感じたことは、他の自転車との接触(42.7%)が最多。また、バランスを崩して倒れそうになったケースも半数以上が経験。
- Q. 子ども用ヘルメットの着用実態** **P5・6**
- 子ども乗せ自転車に子どもを乗せている時、必ず子ども用のヘルメットを着用させる親は4割半(44.5%)と半数以下。
  - 子ども自身が自転車に乗る際に、ヘルメットを着用させていない(持っていない含む)親は約6割(58.8%)で、必ず子ども用ヘルメットを着用させている親の3割強(32.4%)の倍近くを占める。
  - 関西では子ども乗せ自転車で、必ず子ども用のヘルメットを着用させる親が4割以下(38.1%)と関東に比べ約13ポイント低い。
  - 「必ず着用」割合は、関東・関西の両方で、子どもの年齢が高くなるほど低下している。
- Q. 子ども用ヘルメットの着用理由** **P7**
- 着用理由は、ほとんど(92.3%)が事故などにあった際に頭部の怪我を防げると思うからと回答。
- Q. 子ども用ヘルメットの選び方についての認知** **P8**
- 子どもの頭にフィットしたヘルメットが選べる(選んでいる)と認識している親は4割弱(37.6%)。
  - ヘルメット選びで考慮すべきポイント、日本人(を含むアジア人)と、欧米人の頭の形の違いについては約4割(40.8%)が知らないと回答。
- Q. 自転車の走行で気をつけて(気をつけさせて)いること** **P9**
- 子ども乗せ自転車を運転する際に気をつけていること、子ども自身が自転車に乗る際に気をつけさせていることは「信号を必ず守ること」、「スピードを出しすぎないこと」が上位。
  - 自転車に乗る子どもを持つ親では、「ヘルメットを必ずかぶらせる」が3割強(31.7%)に留まる。
- Q. 子どもの自転車ヘルメット着用の努力義務についての認知** **P10**
- 子ども乗せ自転車を運転する親の3割弱(27.7%)が、乗せている子どもにヘルメット着用の努力義務があることを知らない。
  - 一方、子どもが自分で自転車に乗る親については、さらに認知が低く、4割強(43.1%)が子どもが自転車を運転する際に、ヘルメット着用の努力義務があることを知らない。
- Q. 自転車は車道を走る必要がある義務についての認知** **P11**
- 8割以上(81.9%)が、自転車は車道を走る必要がある義務について認知。
  - しかし、実際には子ども乗せ自転車に子どもを乗せて運転する際に7割弱(67.1%)が歩道を走行。
  - 一方、子ども自身が自転車に乗っている際に5.7%が、主に車道を走行。
- Q. (2014→2016年)ヘルメット着用率の推移** **P12・13**
- 「必ず着用」は2年間で2~4ポイント増加。一方で「ヘルメットを持っていない」も増加しており、安全重視層と未対策層の両極が増加。
  - 但し、関西では「必ず着用」割合の伸びが顕著。
- Q. (2014→2016年)頭の形の差異の認知** **P14**
- 「頭の形の違い認知+考慮必要」は2年間で18ポイントの大幅増。

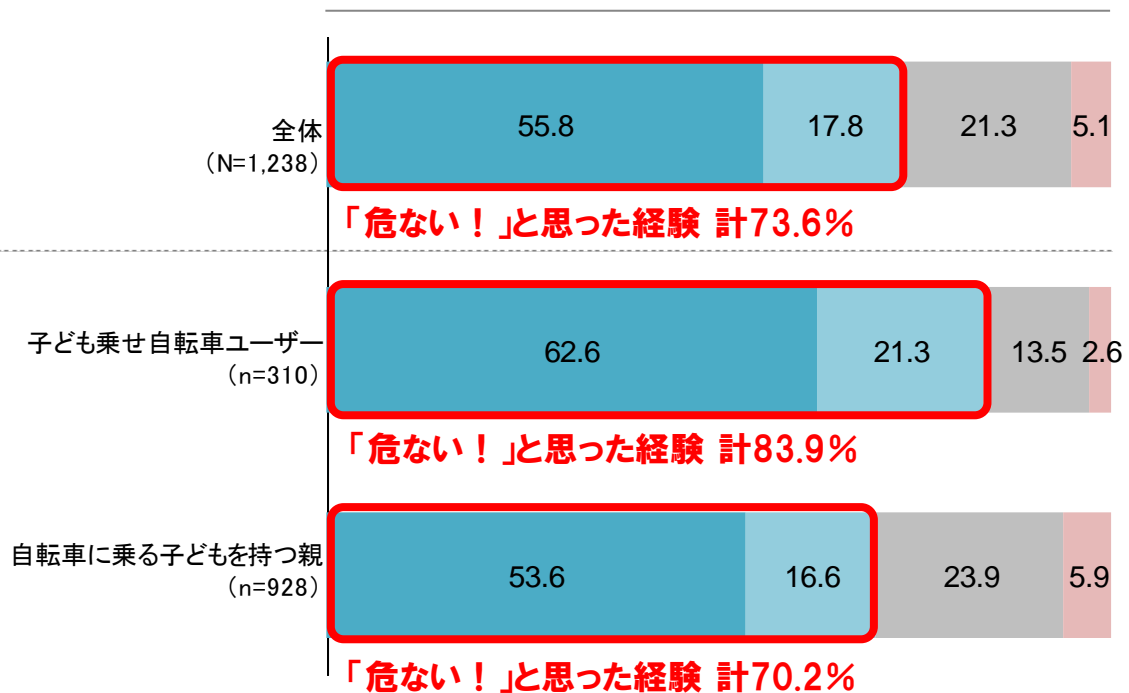
# 自転車に乗せていて(乗っていて)危ないと感じた経験

■ 約4人に3人(73.6%)の親が自転車に乗せていて(乗っていて)「危ない！」と感じた経験がある。

自転車に乗っていて危ないと感じた経験を聞いたところ、子ども乗せ自転車に子どもを乗せて運転する親(83.9%)、自転車に乗る子どもを持つ親(70.2%)と、全体で約4人に3人(73.6%)が危ないと思ったことがあると回答。【グラフ1】

【グラフ1】 自転車に乗せていて(乗っていて)「危ない！」と感じた経験の有無 <N=1,238> 単一回答

■ 「危ない！」と思った経験が何度かある ■ 「危ない！」と思った経験が一度ある ■ 「危ない！」と思った経験はない ■ 覚えていない

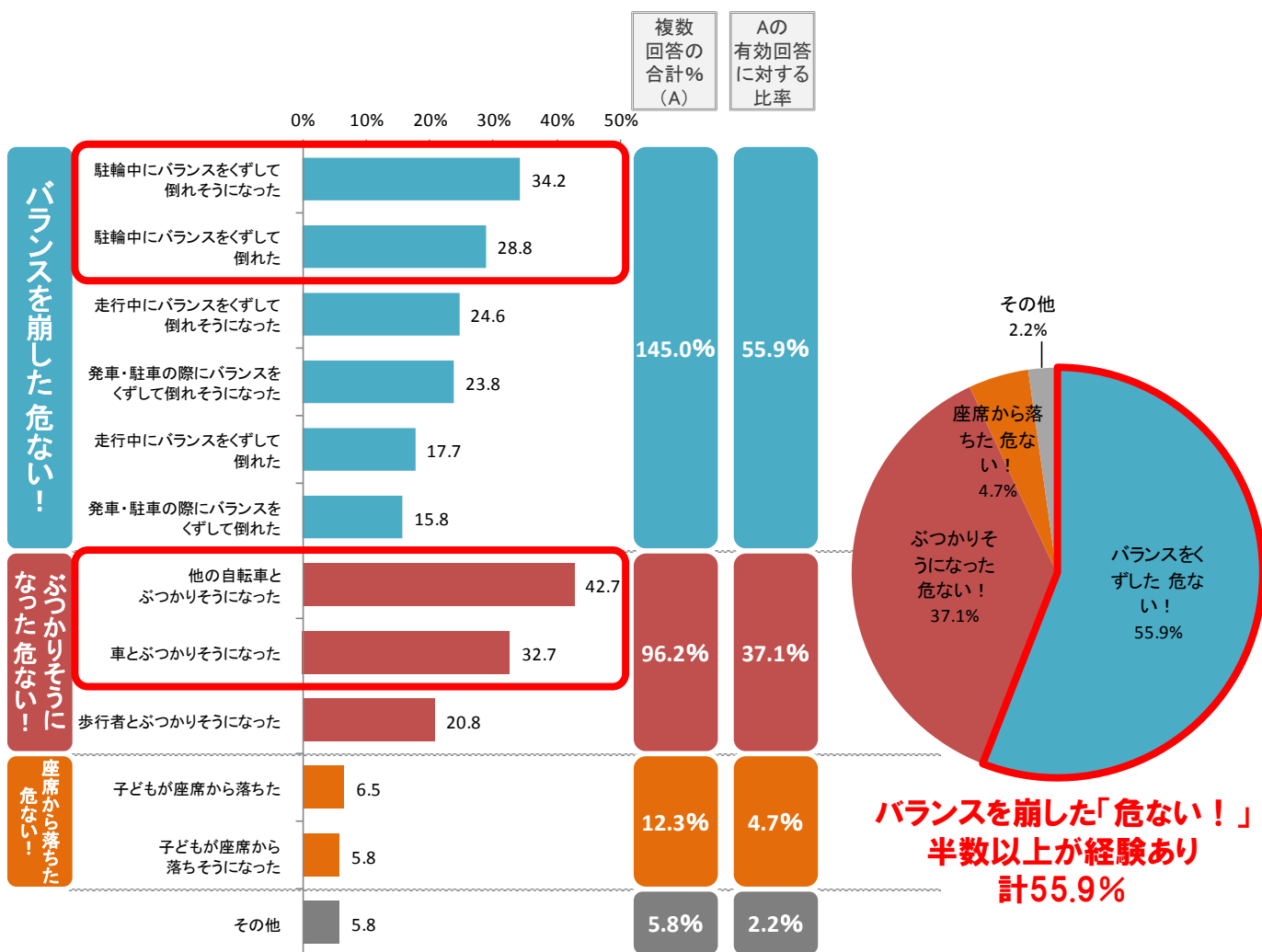


# 危ないと感じた経験の内容

■ 子ども乗せ自転車に子どもを乗せていて危ないと感じたことは、他の自転車との接触(42.7%)が最多。また、バランスを崩して倒れそうになったケースも半数以上が経験。

危ないと感じたことは、「他の自転車とぶつかりそうになった」(42.7%)が最も多く、「駐輪中にバランスをくずして倒れそうになった」(34.2%)、「車とぶつかりそうになった」(32.7%)などが続く。全体のボリュームではバランスを崩して危ないと感じた経験が半数以上を占める結果となった。【グラフ2】

【グラフ2】「危ない！」と感じた経験の内容 <n=260> 複数回答



子ども乗せ自転車に子どもを乗せた状態で、自転車が横に倒れることは子どもにとって大変危険な状態。この危険から子どもを守るために、ヘルメット着用が努力目標とされている。

# 子ども用ヘルメットの着用実態

\* 2年前からの推移はP12～13をご参照ください。

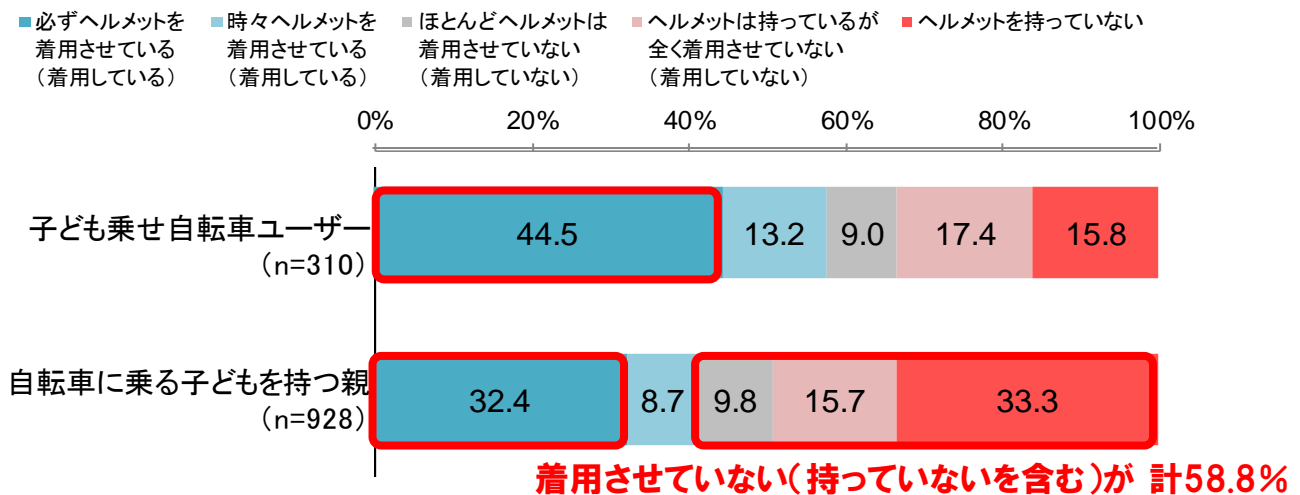
- 子ども乗せ自転車に子どもを乗せている時、必ず子ども用のヘルメットを着用させる親は4割半(44.5%)と半数以下。
- 子ども自身が自転車に乗る際に、ヘルメットを着用させていない(持っていない含む)親は約6割(58.8%)で、必ず子ども用ヘルメットを着用させている親の3割強(32.4%)の倍近くを占める。
- 関西では子ども乗せ自転車で、必ず子ども用のヘルメットを着用させる親が4割以下(38.1%)と関東に比べ約13ポイント低い。

子ども乗せ自転車に子どもを乗せて運転する親のうち、「必ずヘルメットを着用させている」は4割半(44.5%)に留まった。

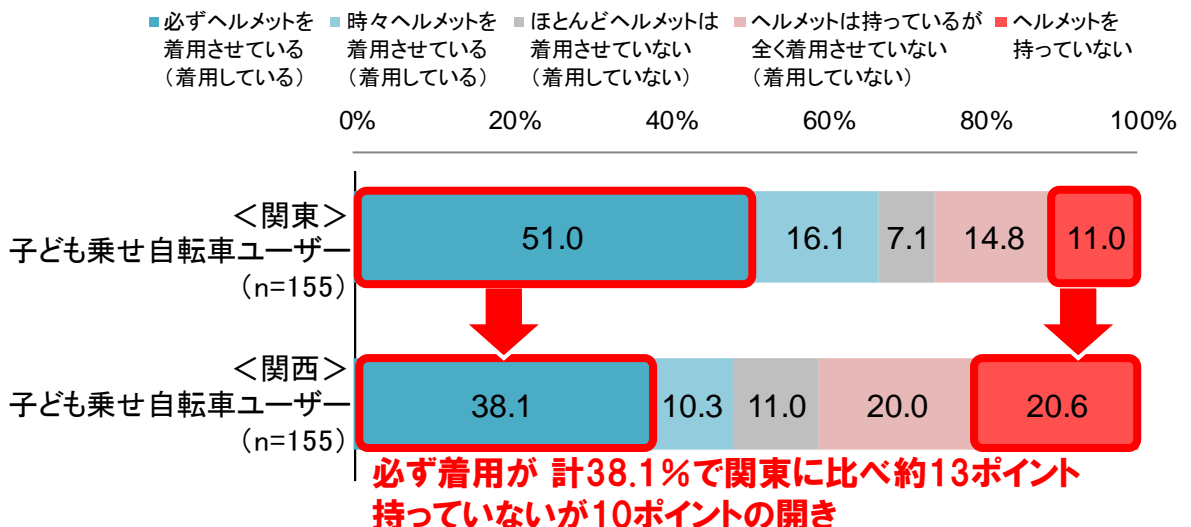
自転車に乗る子どもを持つ親では「必ず着用」は3割強(32.4%)に留まる。その反対に、「ほとんど着用させていない」(9.8%)、「全く着用させていない」(15.7%)、「ヘルメットを持っていない」(33.3%)を合計すると、約6割(58.8%)となり、「必ず着用」の2倍近くと大幅に上回る結果となった。【グラフ3】

関西では、子ども乗せ自転車で必ず子どもにヘルメット着用させているのは4割以下(38.1%)と、関東(同51.0%)と比べ13ポイント下回り、関西でのヘルメット着用率の低さがうかがえる結果となった。また、子ども用ヘルメットを持っていない親も20.6%と関東(11.0%)より約10ポイント上回った。【グラフ4】

【グラフ3】 子ども用ヘルメット着用実態 <N=1,238> 単一回答



【グラフ4】 子ども乗せ自転車ユーザーのヘルメット着用状況 関東関西別 <n=310> 単一回答



# 子ども用ヘルメットの着用実態(年代別)

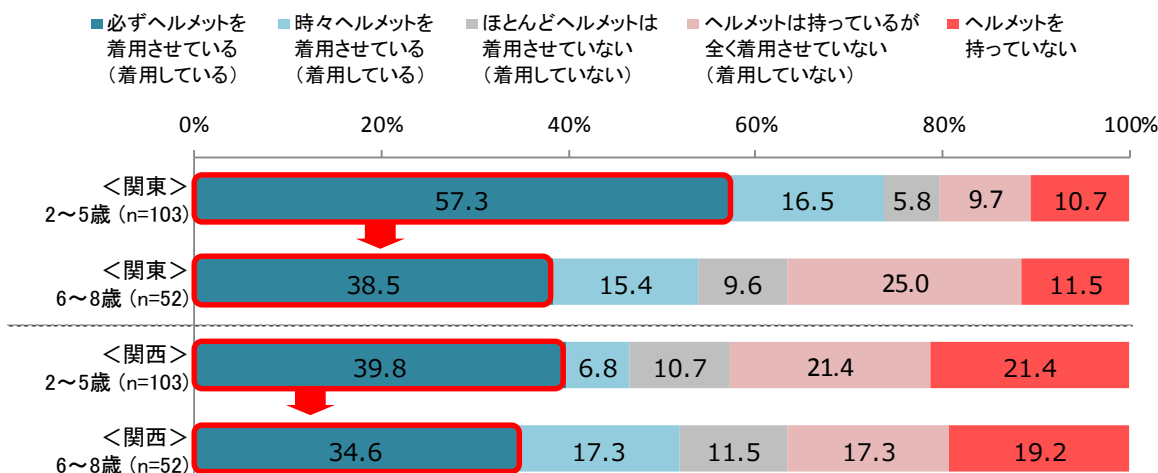
■必ず着用の割合は、子ども乗せ自転車ユーザー、子ども自身のどちらも、年齢が高くなるほど低下。特に子ども自身の必ず着用割合は、9～12歳では関東20.4%、関西13.1%と低い。

子ども乗せ自転車に子どもを乗せて運転する親のうち、「必ずヘルメットを着用させている」割合は、関東では2～5歳が57.3%と半数以上になるが、6～8歳では38.5%と、低下が顕著。関西は2～5歳が39.8%ともともと低いが、6～8歳では34.6%とさらに低下する。【グラフ5】

自転車に乗る子ども自身の「必ずヘルメットを着用」割合も、関東・関西のどちらも、年齢が高くなると低下し、特に9～12歳の必ず着用割合は、関東20.4%、関西では13.1%と低い。【グラフ6】

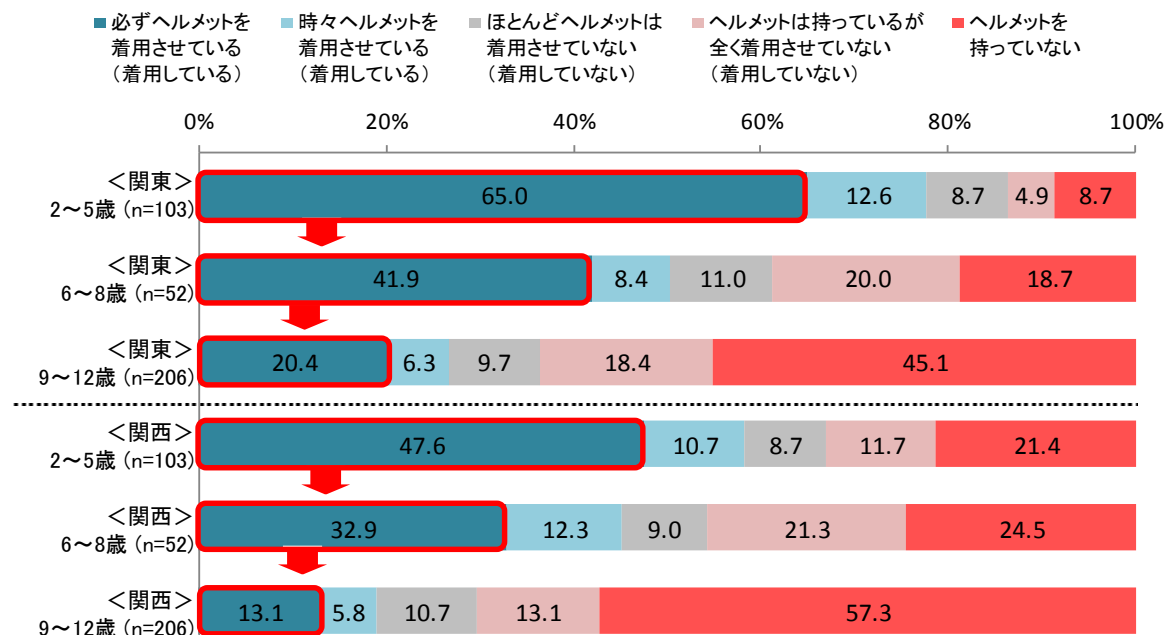
[参考]大阪府におけるヘルメット「必ず着用」割合は、子ども乗せ自転車に子どもを乗せている親で、2～5歳27.9%・6～8歳25.0%。自転車に乗る子ども自身では2～5歳36.4%・6～8歳29.3%・9～12歳4.0%と、関西全体と比べても顕著に低い。

【グラフ5】 子ども乗せ自転車ユーザーのヘルメット着用状況 年代別 <N=310> 単一回答



関東・関西とも年齢が高くなるほど低下するが、特に関東で顕著

【グラフ6】 自転車に乗る子どもを持つ親の子どもへのヘルメット着用状況 年代別 <n=928> 単一回答



関東・関西とも年齢が高くなるほど低下、関西9～12歳は13.1%と低い

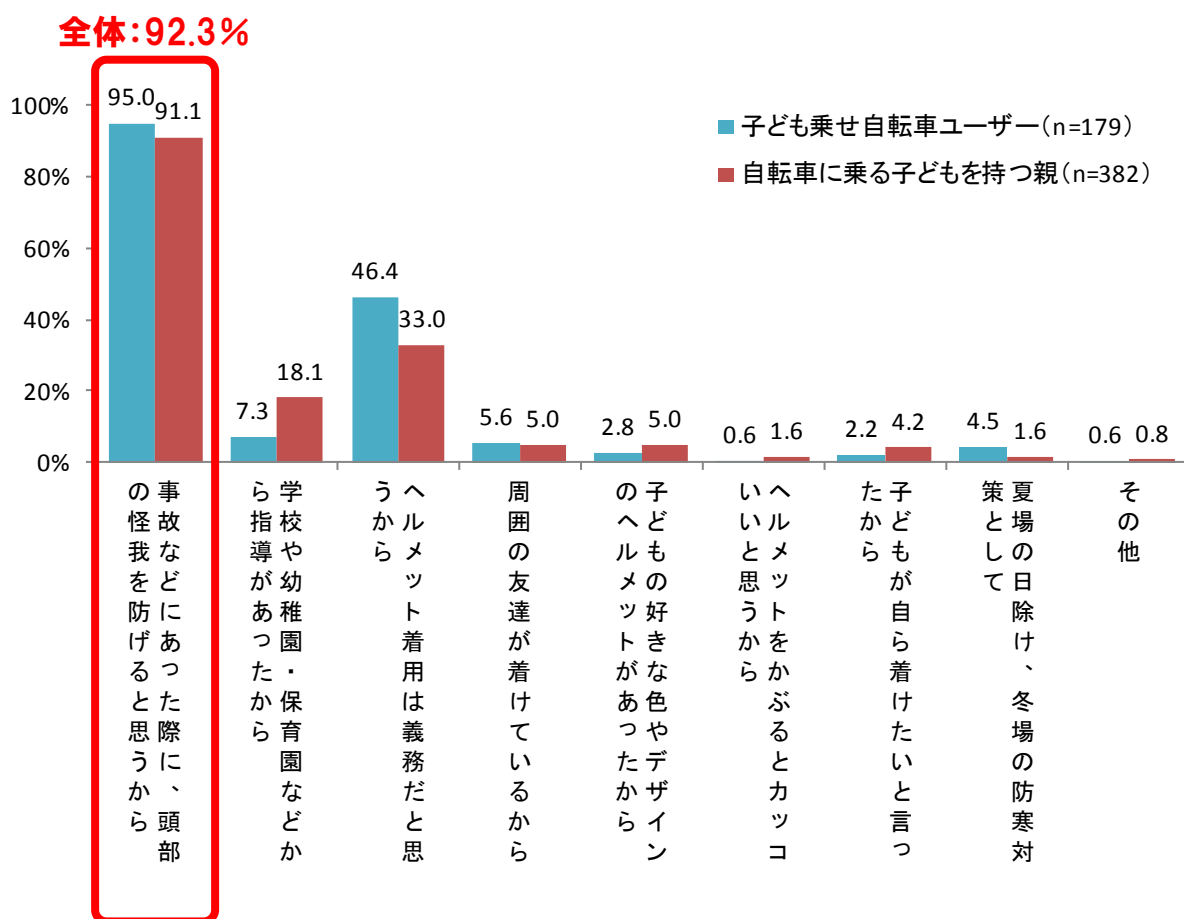
# 子ども用ヘルメットの着用理由

■ 着用理由は、ほとんど(92.3%)が事故などにあつた際に頭部の怪我を防げると思うからと回答。

子どもにヘルメットを着用させている理由としては、子ども乗せ自転車を利用する親(95.0%)、自転車に乗る子どもを持つ親(91.1%)ともに、「事故などにあつた際に頭部の怪我を防げると思うから」が圧倒的に多い。(全体:92.3%)。また、ヘルメット着用を義務だと思っている割合は、子ども乗せ自転車を利用する親で5割弱(46.4%)、自転車に乗る子どもを持つ親では3割強(33.0%)に留まる。

学校などからの指導があつたのは、自転車に乗る子どもを持つ親で2割弱(18.1%)だったが、子ども乗せ自転車ユーザーでは1割弱(7.3%)に留まる。【グラフ7】

【グラフ7】 子ども用ヘルメットを着用させている理由<n=561> 複数回答



自転車事故による死傷の原因として最も多い「頭部」の損傷を心配している。



# 子ども用ヘルメットの選び方についての認知

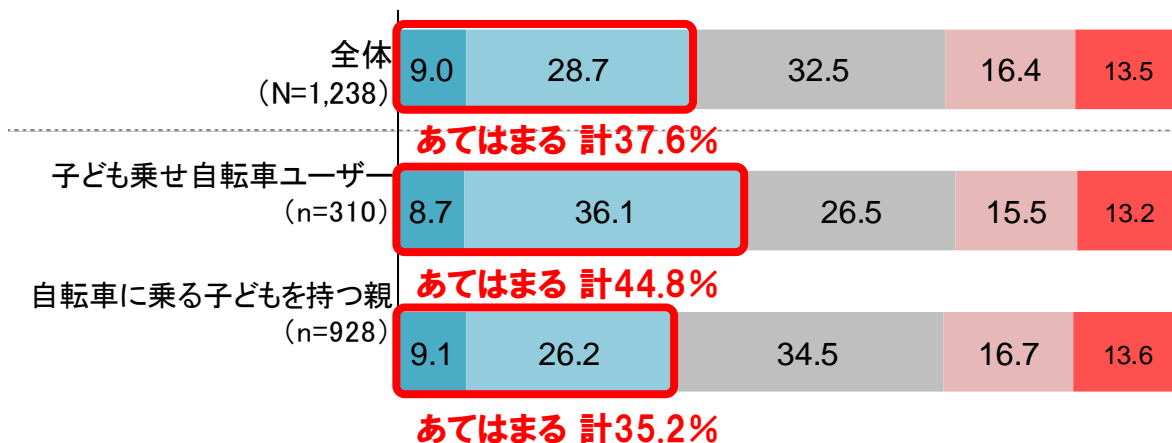
- 子どもの頭にフィットしたヘルメットが選べる(選んでいる)と認識している親は4割弱(37.6%)。
- ヘルメット選びで考慮すべきポイント、日本人(を含むアジア人)と、欧米人の頭の形の違いについては約4割(40.8%)が知らないと回答。

子ども乗せ自転車に子どもを乗せて運転する親の約半数(44.8%)、自転車に乗る子どもを持つ親の4割(35.2%)が「子どもの頭にフィットしたものが選べる・現在フィットしていると思う」と回答(全体:37.6%)しており、子どもの頭にヘルメットがフィットしていると認識している。【グラフ8】

しかしながら、ヘルメット選びに考慮すべきポイントである、「日本人(を含むアジア人)と欧米人の頭の形の違い」については、半数以上(40.8%)が知らないという結果になった。【グラフ9】

【グラフ8】頭にフィットした子ども用ヘルメットが選べていると思うか <N=1,238> 単一回答

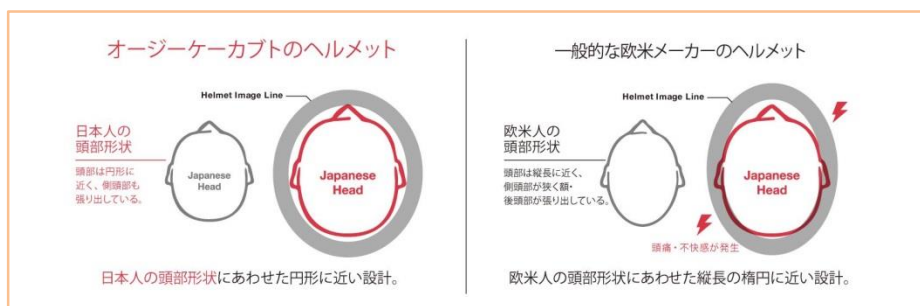
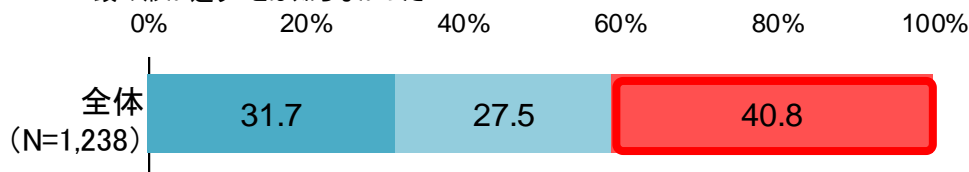
- あてはまる
- ややあてはまる
- どちらとも言えない
- あまりあてはまらない
- あてはまらない



【グラフ9】日本人と欧米人の頭のの違いの認知・ヘルメット選びへの考慮 <N=1,238> 単一回答

\* 2年前からの推移はP14をご参照ください。

- 頭の形が違うことを知っていて、ヘルメット選びの時には考慮が必要だと思っていた
- 頭の形が違うことは知っていたが、ヘルメット選びには関係ないと思っていた
- 頭の形が違うことは知らなかった





# 自転車の走行で気をつけて(気をつけさせて)いること

■子ども乗せ自転車を運転する際に気をつけていること、子ども自身が自転車に乗る際に気をつけさせていることは、「信号を必ず守ること」、「スピードを出しすぎないこと」が上位。

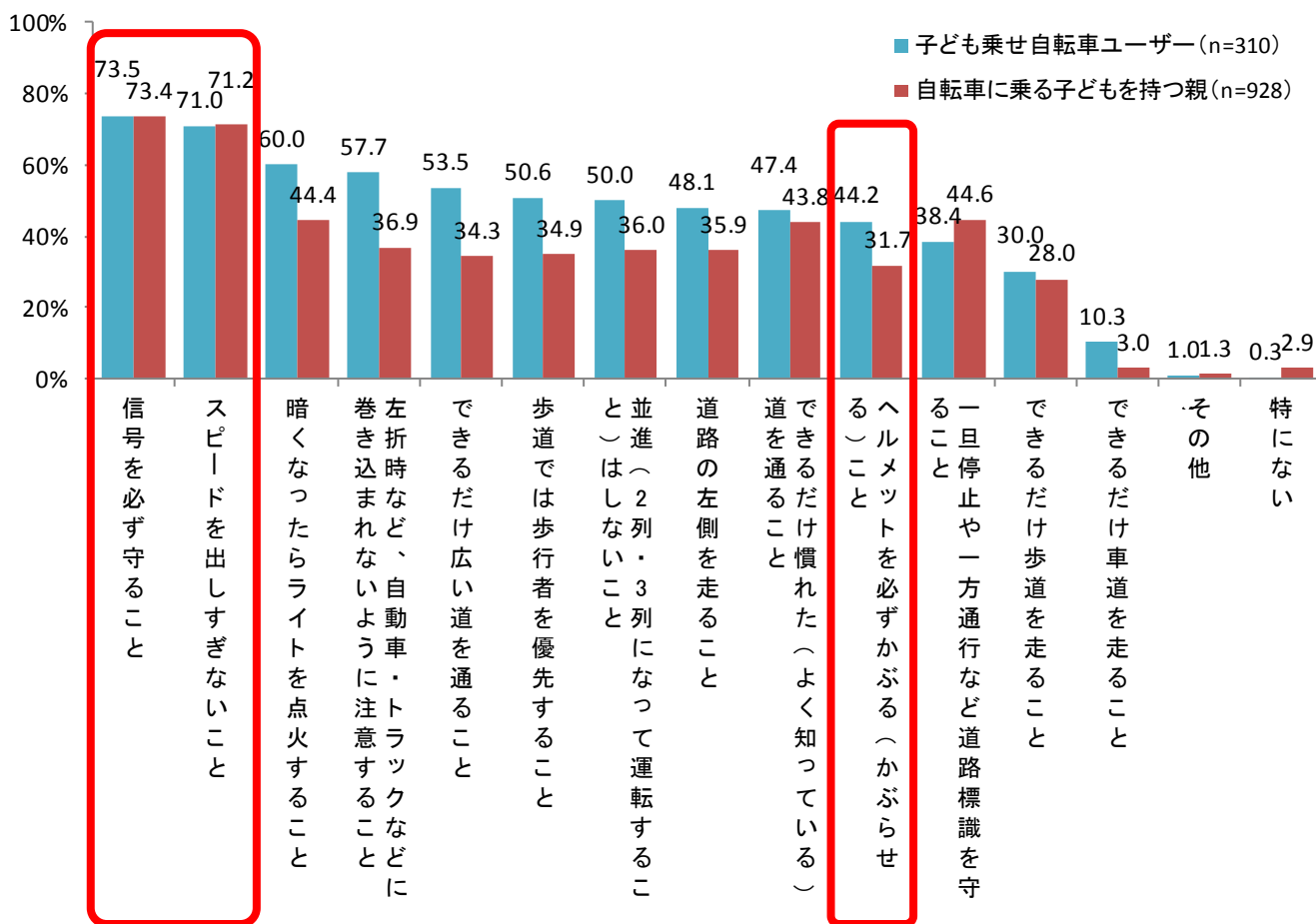
■自転車に乗る子どもを持つ親では、「ヘルメットを必ずかぶらせる」が3割強(31.7%)に留まる。

自転車の走行で気をつけている(気をつけさせている)ことを聞いたところ、「信号を必ず守ること」が子ども乗せ自転車を運転する親(73.5%)、自転車に乗る子どもを持つ親(73.4%)ともにトップであった。次いで「スピードを出しすぎないこと」が挙がり、子ども乗せ自転車を運転する親の約7割(71.0%)、自転車に乗る子どもを持つ親の7割強(71.2%)となった。

「ヘルメットを必ずかぶる(かぶらせる)こと」については、子ども乗せ自転車を運転する親(44.2%)自転車に乗る子どもを持つ親(31.7%)ともに半数以下であり、優先度が低いことがうかがえる。

【グラフ10】

【グラフ10】 自転車の走行で気をつけて(気をつけさせて)いること<N=1,238> 複数回答

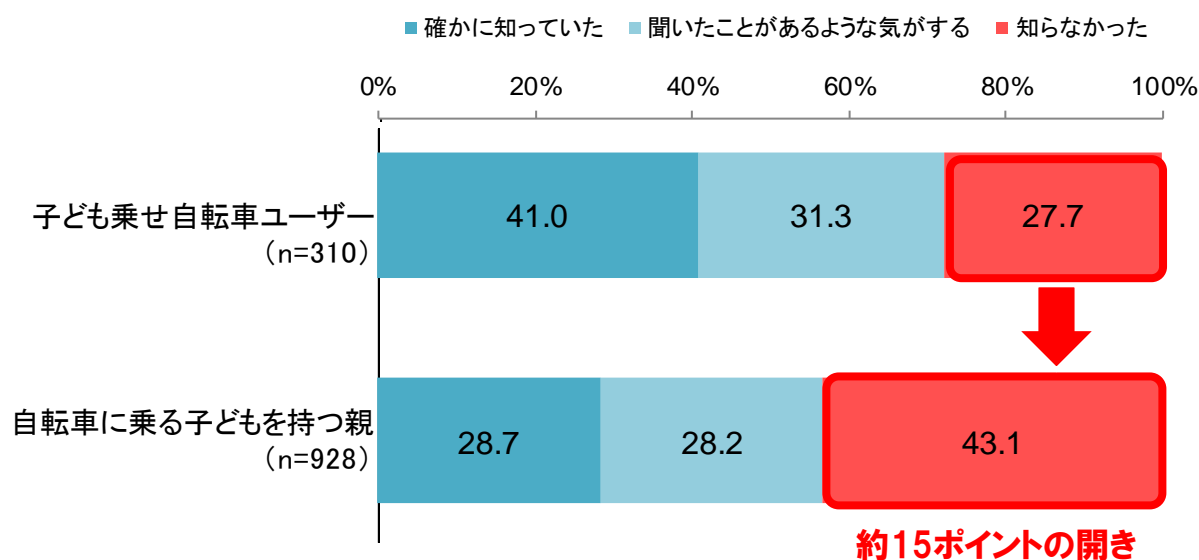


# 子どもの自転車ヘルメット着用の努力義務についての認知

- 子どもませ自転車を運転する親の3割弱(27.7%)が、乗せている子どもにヘルメット着用の努力義務があることを知らない。
- 一方、子どもが自分で自転車に乗る親については、さらに認知が低く、4割強(43.1%)が子どもが自転車を運転する際に、ヘルメット着用の努力義務があることを知らない。

子どもませ自転車を運転する親は、ヘルメットの着用についての努力義務を「確かに知っていた」(41.0%)が約4割を占める。しかし、「知らなかった」も3割弱(27.7%)も存在している。また、自転車に乗る子どもを持つ親では「知らなかった」が4割強(43.1%)となっており、両者で認知に約15ポイントの開きが見られた。【グラフ11】

【グラフ11】 自転車に乗る際、子どものヘルメット着用についての努力義務について<N=1,238> 単一回答



# 自転車は車道を走る必要がある義務についての認知

- 8割以上(81.9%)が、自転車は車道を走る必要がある義務について認知。
- しかし、実際は子ども乗せ自転車に子どもを乗せて運転する際に7割弱(67.1%)が歩道を走行。
- 一方、子ども自身が自転車に乗っている際に5.7%が、主に車道を走行。

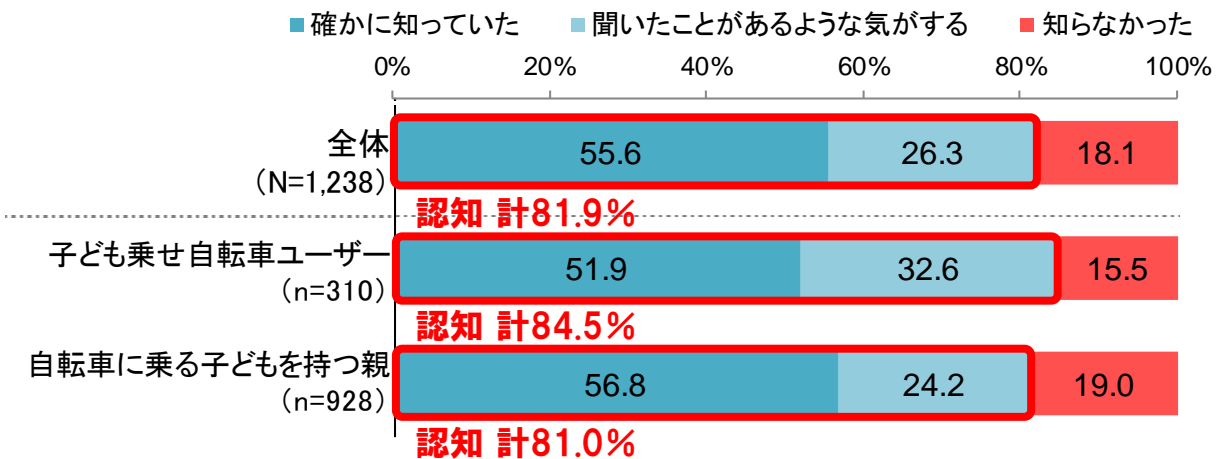
自転車は車道を走る必要がある義務についての認知を聞いたところ、子ども乗せ自転車を運転する親(84.5%)、自転車に乗る子どもを持つ親(81.0%)、また全体では8割以上(81.9%)が知っていると回答。【グラフ12】

しかし、普段自転車に乗る時に車道を走るか、歩道を走るか聞いたところ、子ども乗せ自転車を運転する親の67.1%が主に歩道を走っている。一方、法的には13歳未満の子どもは歩道通行が認められているが、自転車に乗る子ども自身の5.7%は、主に車道を走っていた。【グラフ13】

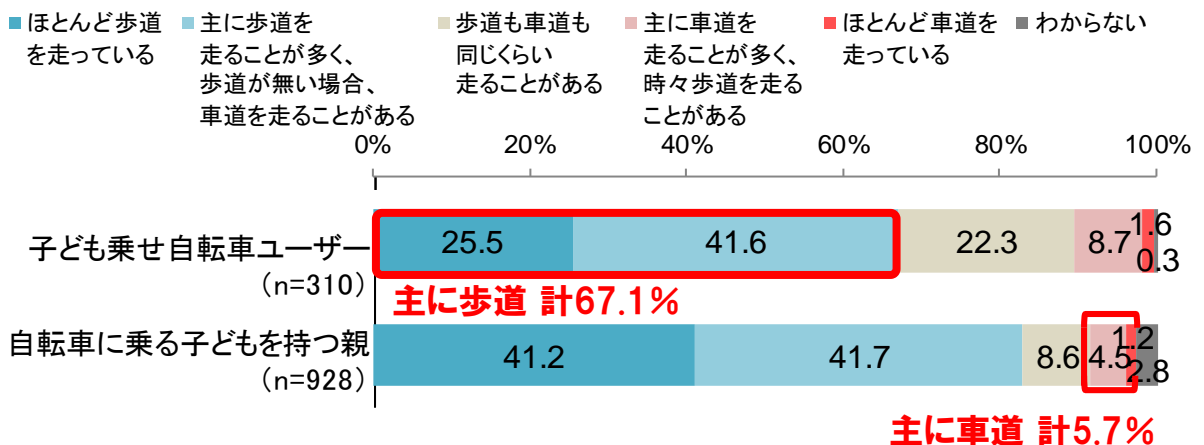
## 【自転車の車道通行義務について】

道路交通法の規定では、自転車は、歩道と車道の区別があるところでは**車道を通行するのが原則**です。但し、(1)道路標識や道路標示で指定された場合、(2)**運転者が13歳未満の子ども/70歳以上の高齢者/身体の不自由な方**の場合、(3)車道や交通の状況からみてもやむを得ない場合などは、例外的に**歩道を通行**することができます。

【グラフ12】 自転車は車道を走る必要がある義務についての認知 <N=1,238> 単一回答



【グラフ13】 自転車に乗っている際、歩道、車道どちらを走らせることが多いか <N=1,238> 単一回答



# 子ども用ヘルメットの着用実態(2014→2016年の比較)

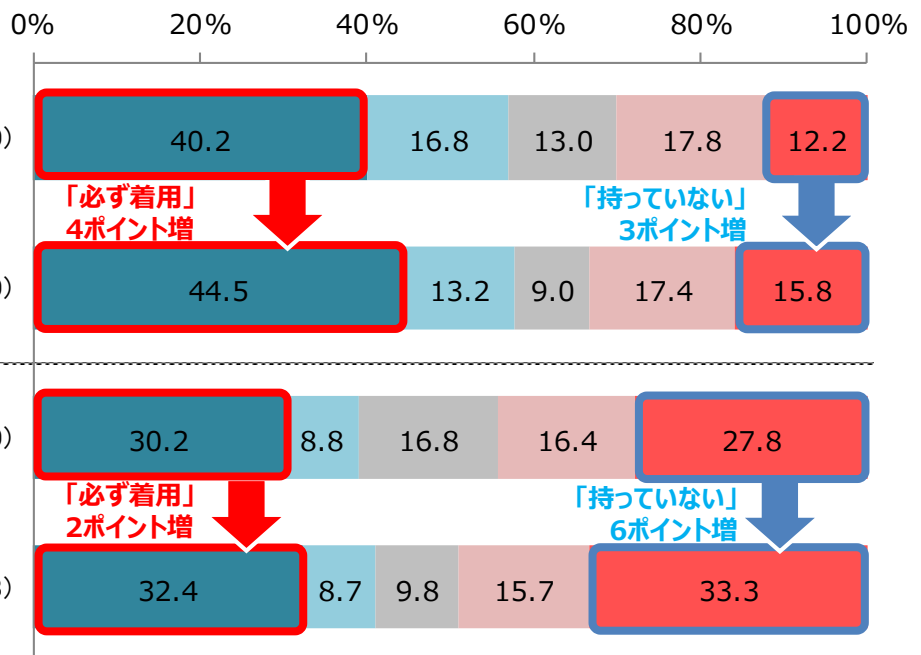
■「必ず着用」は2年間で2～4ポイント増加。一方で「ヘルメットを持っていない」も増加しており安全重視層と未対策層の両極が増加。

ヘルメットの着用状況について、2014年と2016年の結果を比較したところ、「必ず着用」の割合は、子ども乗せ自転車運転する親(40.2%→44.5%)では4ポイント増、自転車に乗る子どもを持つ親(30.2%→32.4%)でも2ポイント増加で推移した。

一方で、「ヘルメットを持っていない」との回答も、子ども乗せ自転車運転する親で12.2%→15.8%(3ポイント増)、自転車に乗る子どもを持つ親で27.8%→33.3%(6ポイント増)となっており、安全重視の「必ず着用」層と、未対策の「ヘルメットを持っていない」層の両極が増加する形となった。【グラフ14】

【グラフ14】 子ども用ヘルメットの着用実態(2014→2016年の比較)

- 必ずヘルメットを着用させている(着用している)
- 時々ヘルメットを着用させている(着用している)
- ほとんどヘルメットは着用させていない(着用していない)
- ヘルメットは持っているが全く着用させていない(着用していない)
- ヘルメットを持っていない



# 子ども用ヘルメットの着用実態(2014→2016年 関東・関西の比較)

- 「必ず着用」は関東＞関西だが、推移では関西の伸びが顕著。但し、両地域とも「ヘルメットを持っていない」も増加。
- 大阪府では、関西全体と比べても着用状況は低調。

ヘルメットの着用状況の2014年→2016年の推移を、関東と関西に分けて比較した。子ども乗せ自転車を運転する親では、「必ず着用」は関東が47.4%→51.0%の4ポイント増。これに対して、関西は関東と比べて「必ず着用」割合は低いものの、その伸び率は2014年28.4%→2016年38.1%と10ポイントも増加した。

しかし、両層ともに「ヘルメットを持っていない」は2～3ポイントの増加となっており、前項で指摘した“両極への集中”が両地域とも進んでいる様子がうかがえる結果となった。

なお、大阪府のヘルメット着用率は、「時々」を含めても、関西全体よりかなり低い。【グラフ15】

【グラフ15】 子ども用ヘルメットの着用実態(2014→2016年の比較) <関東/関西/大阪府>

- 必ずヘルメットを着用させている(着用している)
- 時々ヘルメットを着用させている(着用している)
- ほとんどヘルメットは着用させていない(着用していない)
- ヘルメットは持っているが全く着用させていない(着用していない)
- ヘルメットを持っていない

0% 20% 40% 60% 80% 100%

関東・子ども乗せ  
自転車ユーザー

2014年 (n=310)



「必ず着用」  
4ポイント増

「持っていない」  
3ポイント増

2016年 (n=155)



関西・子ども乗せ  
自転車ユーザー

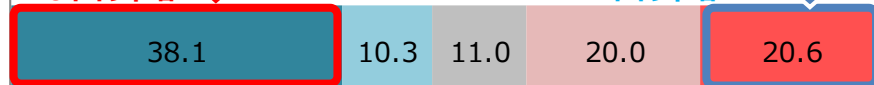
2014年 (n=190)



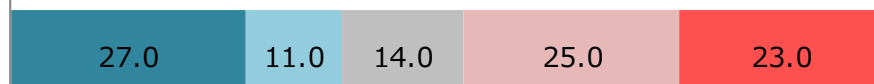
「必ず着用」  
10ポイント増

「持っていない」  
2ポイント増

2016年 (n=155)



(参考)2016年 大阪府  
(n=100)



大阪府は関西全体と  
比べても着用が低調

# 頭の形の違いについての認識(2014→2016年の比較)

■「頭の形の違い認識+考慮必要」は2年間で18ポイントの大幅増。

日本人(を含むアジア人)と欧米人の頭の形の違い、及びヘルメット選択時の考慮については、この2年間で「頭の形が違うことを知っていて、ヘルメット選びの時に考慮が必要だと思っていた」が13.9%→31.7%、17.8ポイントの大幅増となっており、浸透が急速に進んだことが示された。【グラフ16】

【グラフ16】日本人と欧米人の頭の違いの認知・ヘルメット選びへの考慮(2014→2016年の比較)

- 頭の形が違うことを知っていて、ヘルメット選びの時に考慮が必要だと思っていた
- 頭の形が違うことは知っていたが、ヘルメット選びには関係ないと思っていた
- 頭の形が違うことは知らなかった

